

授業科目名	コミュニケーション演習 2	担当教員	平田 オリザ 杉山 至 平田 知之 石井 路子 山内 健司
必修の区分	必修		
単位数	2 単位		
授業の方法	演習		
開講年次	1 年 第 3 クォーター		
講義内容	コミュニケーション演習 1 に引き続き、本講座は、メタワークショップと呼ばれる手法を用いて、実際に身体を動かす演劇やダンスのワークショップと、パフォーマンスアーツの基礎的な理論に関する講義を交互に行い、大学での学び、特に本学での学びに必要とされるコミュニケーション能力を、実践を通じて身につけてもらうことを主眼としている。 また、この講座は、本学の学びの根幹をなすことから、受講した全学生が、観光、マネジメント、アートマネジメント、演劇・ダンスの全方向に広い関心と好奇心を持つことを目標とし、各分野が横断的に関連していることを体得させることを目的としている。 第1Q から、さらに高度な内容となり二年次からの学生の学びへつなげるための思考力、共働性などを育むカリキュラムとなっている。 講義は、複数教員のオムニバスとし、授業によっては複数の教員で運営される。		
到達目標	本講座を受講した学生は、演劇やダンスを通じて、言語コミュニケーションと身体コミュニケーションの双方について基礎的な能力を身につける。 ・受講した学生は、パフォーマンスアーツ、観光、マネジメント、アートマネジメントの連関について強い好奇心を持つようになる。 ・受講した学生は、グループワークの基礎を体得し、四年間のアクティブラーニングについて積極的な態度や役割分担を身につける。 特に第3Q ではグループワークの比重が増し、チームビルディングの基礎などを実践を通じて獲得する。 ・社会における芸術の役割を理解する。		
授業計画	平田オリザ 第1回 創作プログラムの概要を説明する。 三人一組のテキストを使って、演出によって関係性に変化が起こることを学び、情報の出し方などプレゼンテーションの基本的な概念を習得する。 第2回 創作プログラムのアイデアを出し合い、グループ分けを決定する。 登場人物の選定、プロットの設定について説明する。 第3回 創作プログラムの登場人物を決定しプロットを創作する。 多人数のテキストを使い同時多発の会話について学び物語の構造について理解する。 第4回 創作プログラムの進捗を確認する。		

	<p>より複雑なテキストを使い、チームビルディングについて学ぶ</p> <p>第5回</p> <p>創作プログラムの戯曲を完成させる</p> <p>第6回</p> <p>創作プログラムのための練習を行い翌日の発表に備える。</p> <p>第7回</p> <p>創作プログラムの発表を行い、作品と作業についての振り返りも併せて実施する。</p> <p>石井路子</p> <p>第8回 コミュニケーションの受信器であり発信機でもある身体に着目し、身体感覚を呼び覚ますための基礎的な運動を行う。重力と身体を使ったペアワークを体験する。</p> <p>第9回 コミュニケーションの受信器であり発信機でもある身体に着目し、身体感覚を呼び覚ますための基礎的な運動を体験する。協働のスキルを考察するためのボールを使ったワーク1</p> <p>第10回 コミュニケーションの受信器であり発信機でもある身体に着目し、身体感覚を呼び覚ますための基礎的な運動を行う。協働のスキルを考察するためのボールを使ったワーク2。</p> <p>第11回 コミュニケーションの受信器であり発信機でもある身体に着目し、身体感覚を呼び覚ますための基礎的な運動を行う。協働のスキルを考察するためのボールを使ったワーク3。</p> <p>第12回 コミュニケーションの受信器であり発信機でもある身体に着目し、身体感覚を呼び覚ますための基礎的な運動を行う。協働のスキルを考察するためのボールを使ったワーク4。</p> <p>第13回 コミュニケーションの受信器であり発信機でもある身体に着目し、身体感覚を呼び覚ますための基礎的な運動を行う。協働のスキルを考察するためのボールを使ったワーク5。</p> <p>杉山至</p> <p>第14回「空間のスケッチ」</p> <p>空間からコミュニケーションを考える2回連続のワーク。気になる空間のスケッチとチームによるシンプルな創作。</p> <p>第15回「空間とパフォーマンス」</p> <p>前回の続き、発見した空間にチームによるグループワークでシンプルなパフォーマンスを創作。</p> <p>第16回「触覚ースケッチームーブメント」</p> <p>知覚とコミュニケーション。主に触覚についてのワークから、身体のムーブメントまでをスケッチやセノグラフィーの視点から体感する。</p>
--	---

	<p>平田知之</p> <p>第 17 回 コミュニケーション学の基礎を学ぶ(1) コミュニケーションの性質とコミュニケーションの表現形</p> <p>第 18 回 コミュニケーション学の基礎を学ぶ(2) コミュニケーションと記憶、感情・情動、非認知能力</p> <p>第 19 回 コミュニケーション教育のプログラムを学ぶ 豊岡市の実践を例とした、系統的な学習計画</p> <p>第 20 回 コミュニケーション教育のファシリテーションを学ぶ 豊岡市の実践を例とした、参加者の見とりに基づくファシリテーションの調整</p> <p>山内健司</p> <p>第 21 回 豊岡聞き演じ 1</p> <p>第 1Q の「しゃべり言葉を調べる」の方法でインタビューを実施 1</p> <p>第 22 回 豊岡聞き演じ 2</p> <p>「しゃべり言葉を調べる」の方法でインタビューを実施 2</p> <p>第 23 回 豊岡聞き演じ 3</p> <p>インタビューを書き起こしたものを演じる発表 1</p> <p>第 24 回 豊岡聞き演じ 4</p> <p>インタビューを書き起こしたものを演じる発表 2</p>
事前・事後 学習	<p>各回、個人、グループ対象の課題が出されるので、次回の講義までに準備をしてくること。</p> <p>グループワークが多く取り入れられるので、事前事後に時間を調整し課題に取り組むこと。</p>
テキスト	授業ごとに配布する
参考文献	『演劇入門』平田オリザ（講談社現代新書 1997 年）
成績評価 の 基 準	授業への貢献度・発言 30% 課題への取り組み 30% レポート 40%
履修上の注意 履修要件	<p>コミュニケーション演習 1 を履修していることが強く望まれる。</p> <p>演劇の経験はまったく必要ない</p> <p>動きやすい格好で参加すること</p> <p>身体的な障害がある場合は配慮するので事前に連絡をすること</p>

実践的教育	該当しない
備考欄	